

【漁況】

[マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2022年は9.9万トンとなりました。

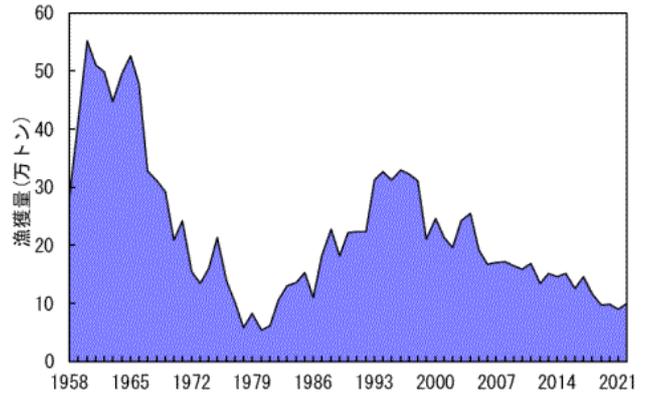


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、7月に串木野沖で、8月に五島下で、9月に牛深沖、阿久根沖、縄瀬及び甑東で漁場が形成されました。銘柄別では、7月から8月にかけて豆銘柄（1歳魚：2023年生まれ）が、9月に小・豆・仔銘柄（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）が漁獲されました。

薩南海域では、7月に内之浦沖で漁場が形成されました。銘柄別では、小銘柄（1歳魚：2023年生まれ）が漁獲されました。

4港計のまき網では294トンの水揚げで、前年比125%、平年比106%でした。

3. 県内の2024年10～12月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年並み

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様から予測しており、前年を上回り、平年並みになるものと考えられます。

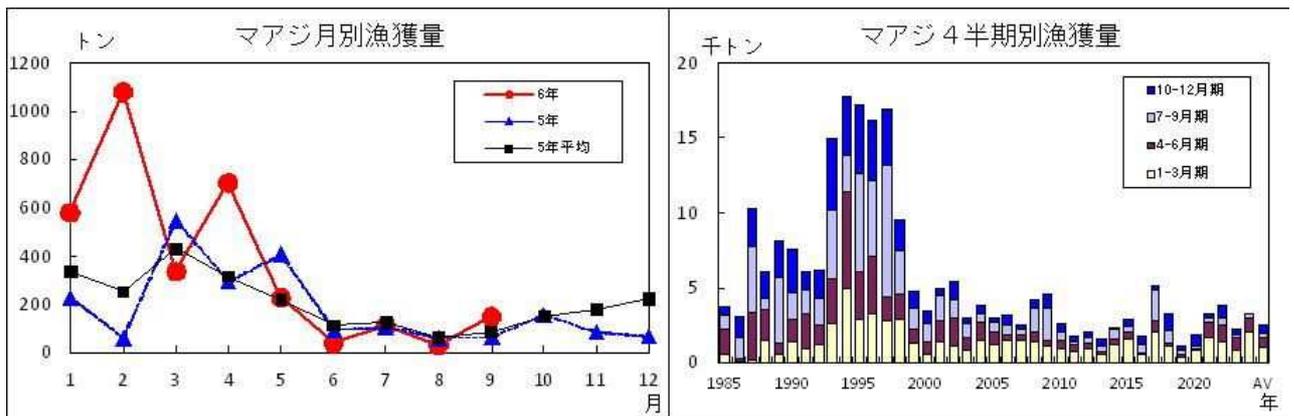


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2024年9月18日までの水揚げを使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2022年は32万トンとなりました。

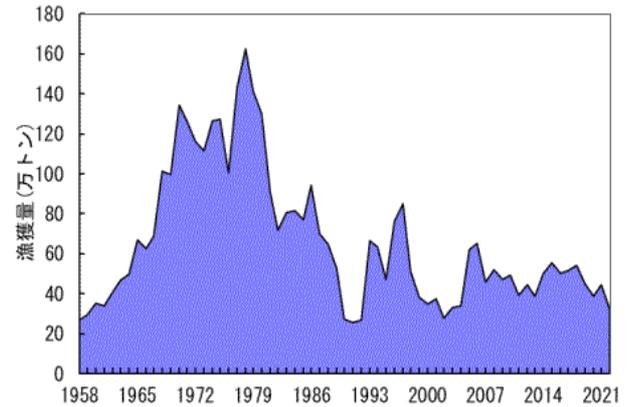


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、8月に縄瀬で、9月に阿久根沖、天草西沖、五島、縄瀬及び甌東で漁場が形成されました。銘柄別では、8月から9月にかけて豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が漁獲されました。

薩南海域では、7月に津倉瀬及び湯瀬で、8月に島間、草垣、西新曾根及び湯瀬で、9月に内之浦沖及び草垣で漁場が形成されました。銘柄別では、7月にゴマサバ中銘柄（3歳魚：2021年生まれ）が、8月にゴマサバ中・中小・豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が、9月にゴマサバ中銘柄及びマサバ豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が漁獲されました。

4港計のまき網では1,258トンの水揚げで、前年比169%、平年比57%でした。

3. 県内の2024年10～12月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄以下（0～3歳魚：2021～2024年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年を下回る

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様から予測しており、前年を上回り、平年を下回るものと考えられます。

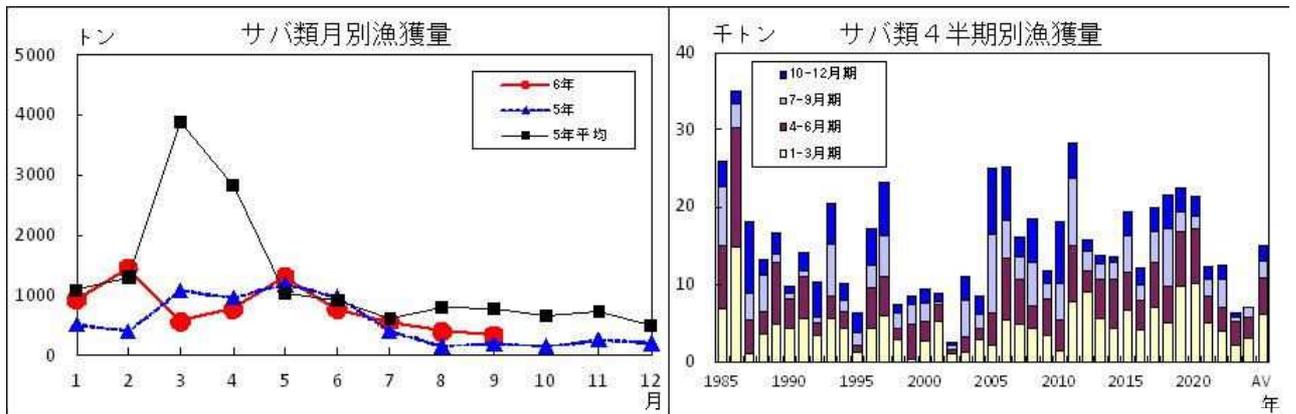


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2024年9月18日までの水揚量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2022年は64万2千トンとなりました。

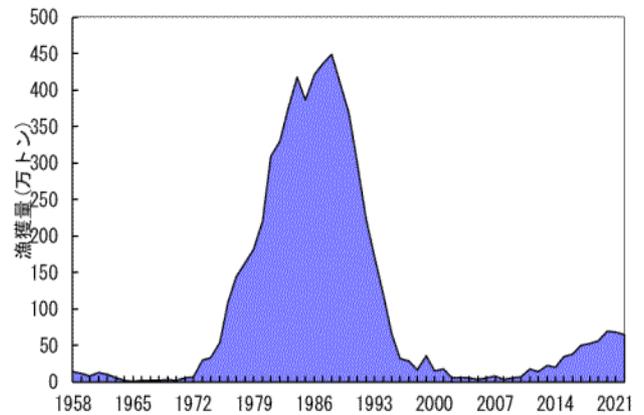


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、7月に甌東，長島沖，串木野沖で漁場が形成されました。8月には縄瀬，長島沖，阿久根沖で漁場が形成されました。9月には縄瀬，天草西沖，五島下で漁場が形成されました。

薩南海域では、7月に枕崎沖，坊津沖で漁場が形成されました。8月には、枕崎沖に漁場が形成されました。9月には、枕崎沖，坊津沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～小羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に1,396トンの水揚げで、前年比33%，平年の119%でした。

北薩海域の棒受網では、中～小羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に308トンの水揚げで、前年比71%，平年比224%でした。

3. 県内の2024年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体

来遊量：前年を下回り，平年上回る。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

2024年生まれが漁獲主体となると予測され、直近の親魚の漁模様から前年を下回り，平年上回ると考えられます。

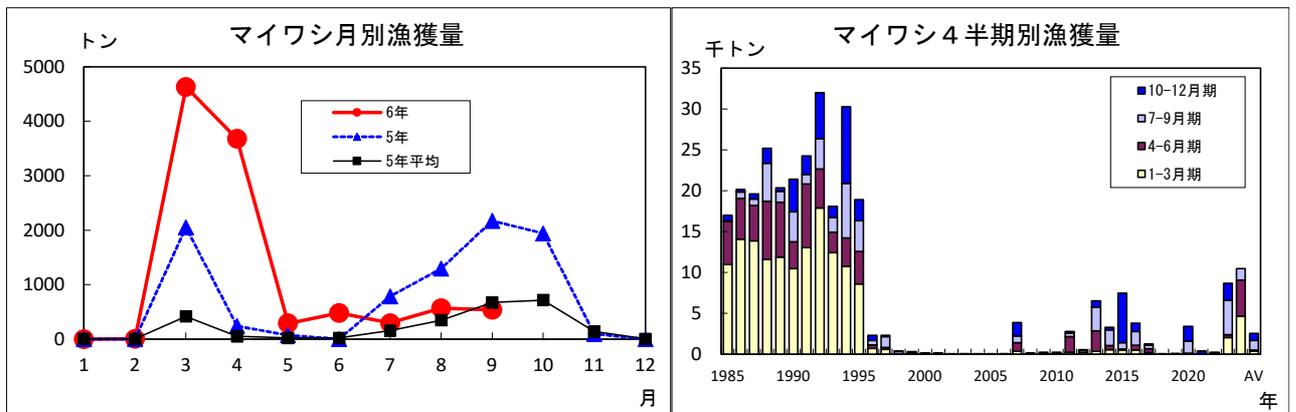


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年9月18日までの水揚げ量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。

2022年の漁獲量は6万4千トンとなりました。

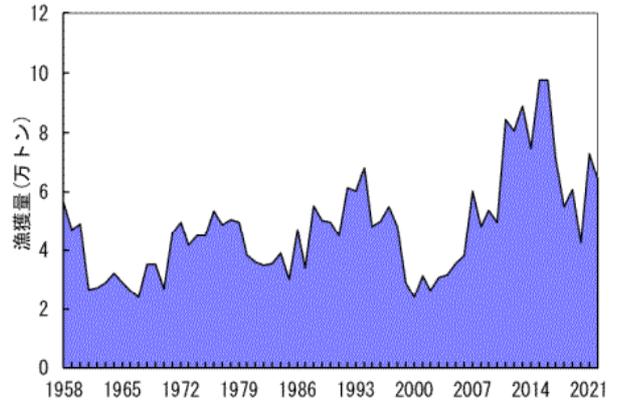


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では7月に甑東，串木野沖に漁場が形成されました。8月に，縄瀬，阿久根沖で漁場が形成されました。9月には，縄瀬，阿久根沖，甑西で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では，7月に枕崎沖，坊津沖で漁場が形成されました。9月には，枕崎沖，開聞沖，坊津沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では，中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に926トンの水揚げで，前年の64%及び平年の84%でした。

北薩海域の棒受網では，小羽～中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に295トンの水揚げで，前年の84%及び平年の40%でした。

3. 県内の2024年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年を下回り，平年並み

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過から予測しました。2024年生まれが漁獲主体となると予測され，直近の親魚の漁模様から，前年を下回り，平年並と考えられます。

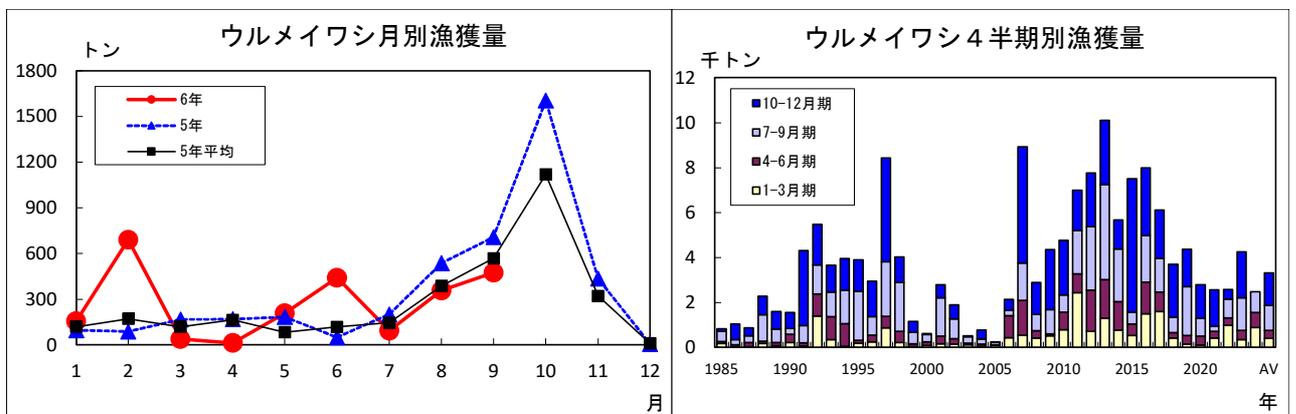


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV），2024年9月18日までの水揚げを使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2022年は12万3千トンとなりました。

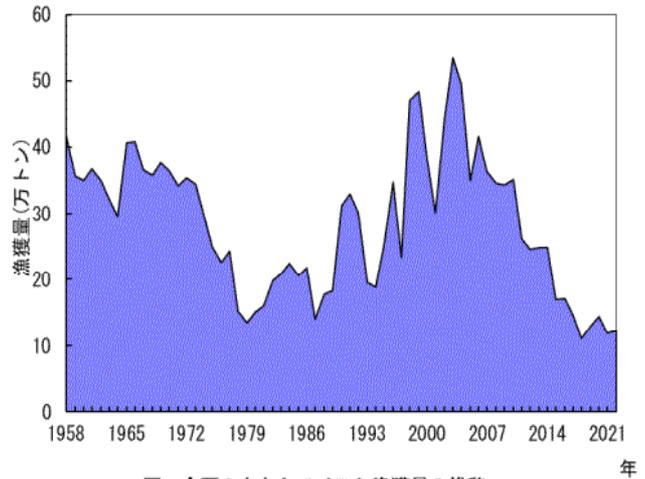


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、7月に沖で甑東に漁場が形成されました。8月には縄瀬で漁場が形成されました。9月には長島沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、9月に開聞沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1歳魚：2023年生まれ）主体に282トンの水揚げで、前年の45%及び平年の55%でした。

北薩海域の棒受網では、中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に16トンの水揚げで、前年の41%及び平年の26%でした。

3. 県内の2024年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年，平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。2024年生まれが漁獲主体となると予測され、直近の漁模様から前年，平年を下回ると考えられます。

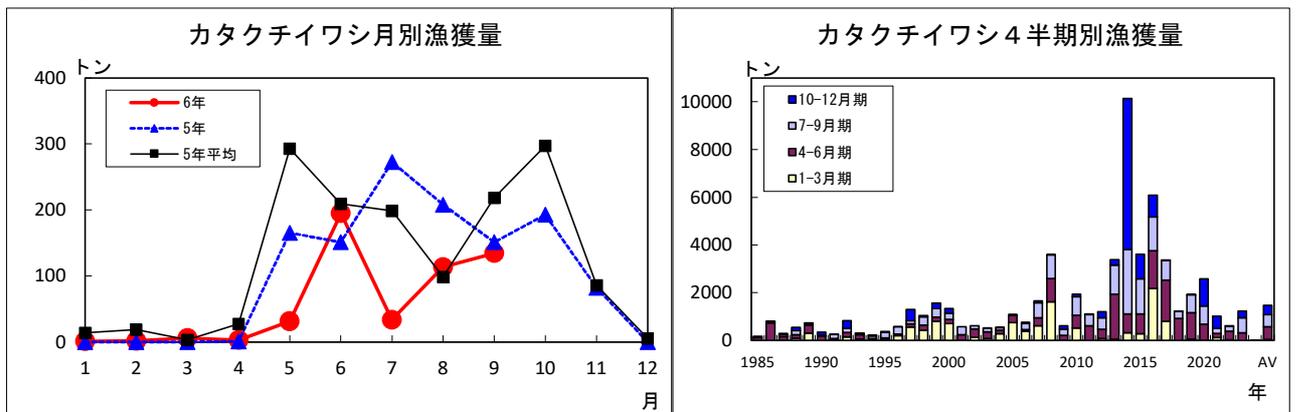


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年9月18日までの水揚げ量を使用

[イワシ類参考資料]

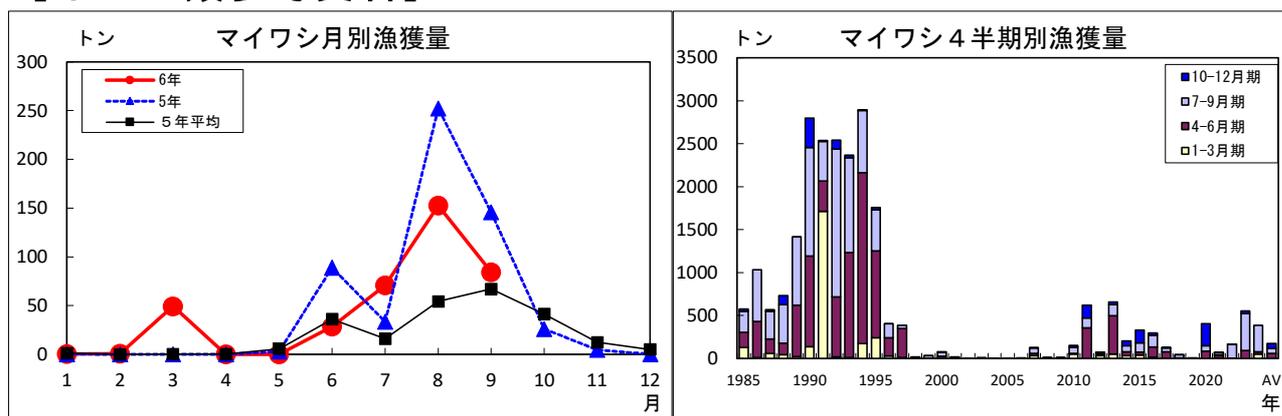


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

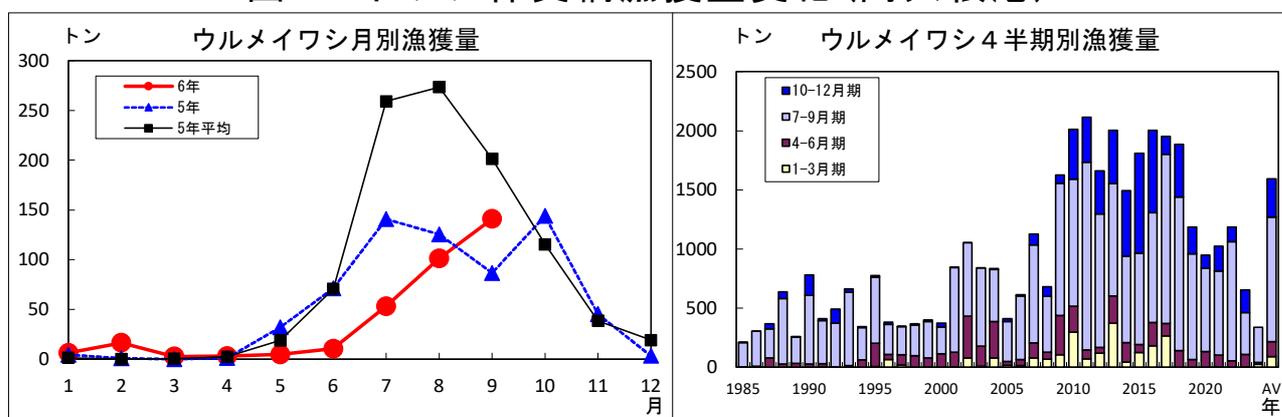


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

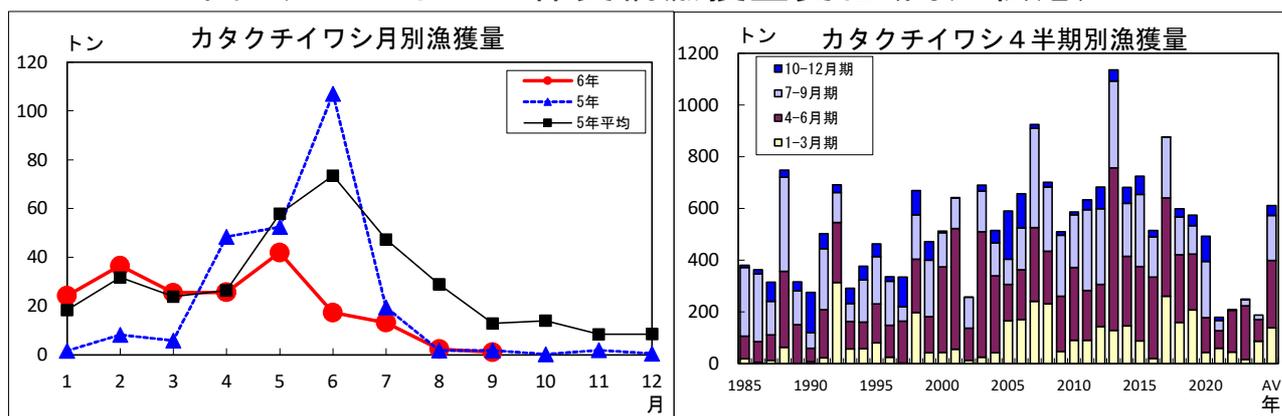


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2024年9月18日までの水揚量を使用

[ムロアジ類]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2023年は1,964トンとなりました。

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

7月に臥蛇島、屋久島及び津倉で、8月に島間沖で、9月に草垣で漁場が形成されました。銘柄別では、7月から8月にかけてクサヤモロ中小・小銘柄が、9月にクサヤモロ中小銘柄及びモロ豆銘柄が漁獲されました。

4港計のまき網では342トンの水揚げで、前年比523%、平年比157%でした。

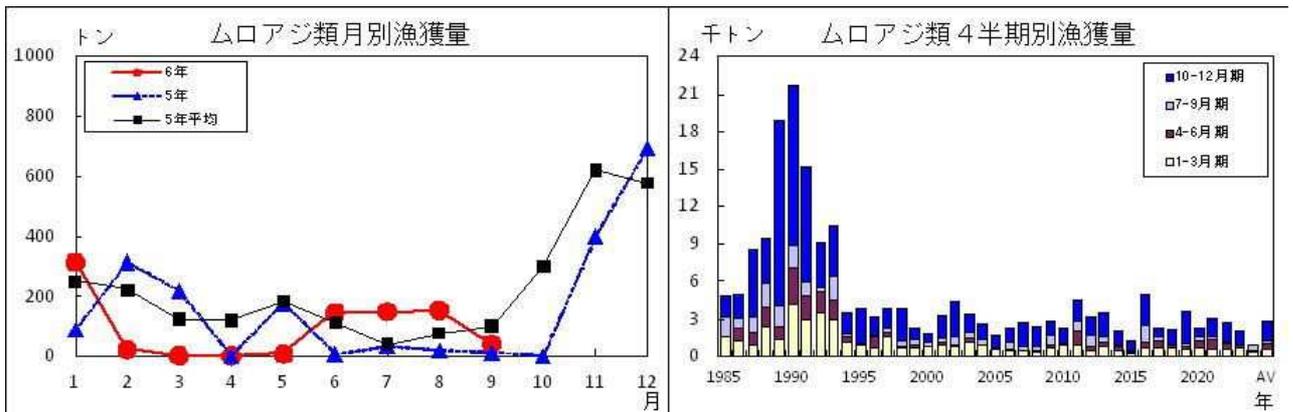


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トンをピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し、2023年は353トンでした。

2. 県内の2024年7～9月期の漁況の経過

まとまった漁場は形成されませんでした。期全体で25トンの水揚げで、前年比81%、平年比22%でした。

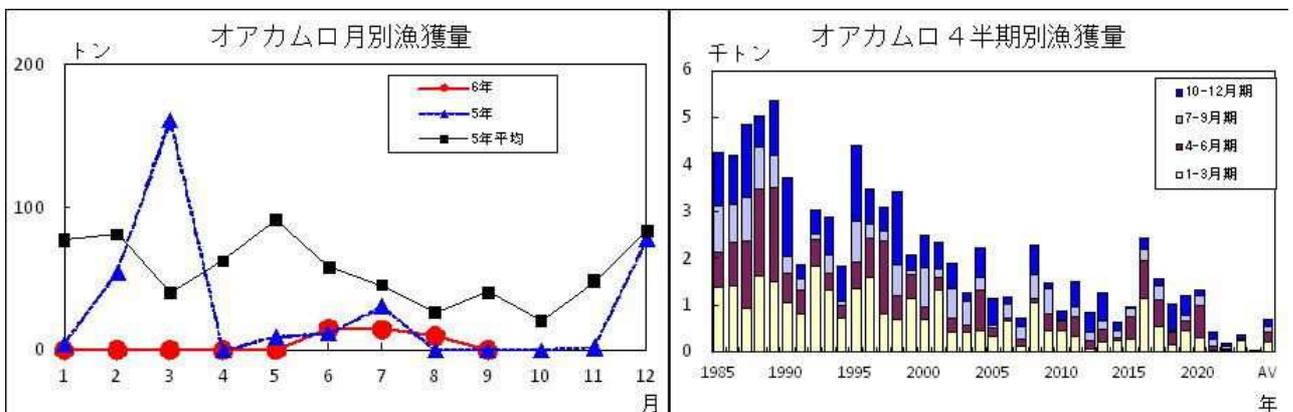


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

[マルアジ]

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2022年は115トンとなりました。

2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

まとまった漁場は形成されませんでした。期全体で30トンの水揚げで、前年比391%、平年比89%でした。

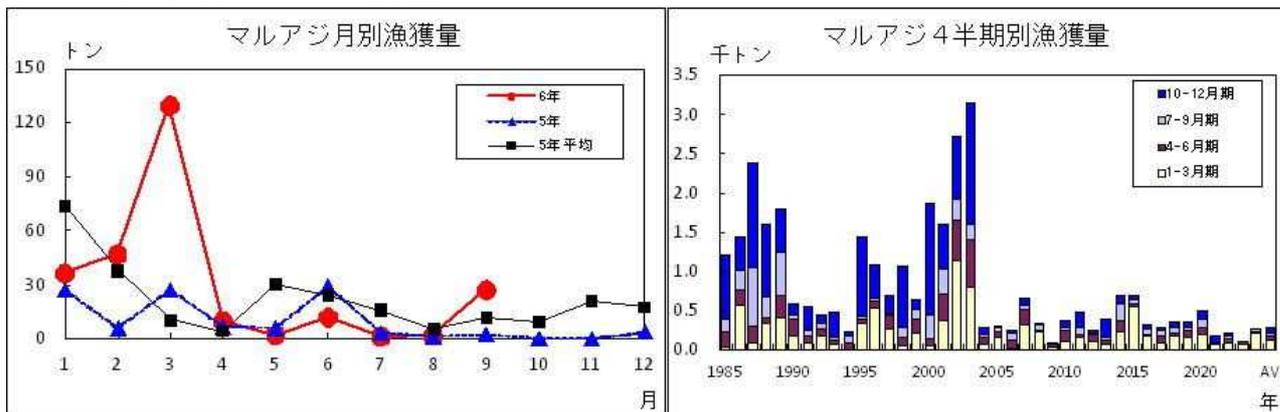


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2024年9月18日までの水揚げ量を使用